

## 令和7年度「ゆかり市長の出張トーク」 開催結果

皆さんのもとに市長が伺い、市政やまちづくりについて意見交換を行う、令和7年度「ゆかり市長の出張トーク」を開催しました。次のとおり概要をお知らせします。

### 第1回 令和7年5月28日（水）

団体名 : サロン ド カモ  
開催時間 : 10時00分～11時10分  
会場 : 旧料亭信濃  
参加人数 : 10人  
テーマ : 公共施設のトイレの改修、ジェンダー、チョイソコかりんちゃん、  
上諏訪駅周辺の利便性の向上 ほか

#### 【主な内容】

##### ■団体から

- ・公共施設のトイレ（上諏訪駅、立石公園、図書館、ヨットハーバー等）のトイレを整備してほしい。トイレがきれいであれば、町全体の印象が良い。
- ・性別欄が「男女」のみのアンケート用紙があったことや道路を歩いている男子小学生が女子小学生に「女は後ろ。危ないから。」と話している場面を見かけたことがあり、ジェンダーの捉え方、学校での指導方法が気になっている。
- ・JRと国道20号線が高架でない。また、JRは単線で、電車の待ち時間が発生するため、解消できないか。
- ・旧城北小学校を、地域の人たちが使える公民館のような形に整備してもらえないか。
- ・市文化センターで開催したイベント等の終了後、車で出ようとする、みんなが一斉に1か所の出入口から出るようになるため、待ち時間が発生する。夜間に開催するイベント等だけでも（現在の出入口の）反対側から流出することができないか。
- ・法務局が上諏訪駅の西口側に移転してから、法務局前のカーブになっている道路を走る車と法務局から出る車が衝突するのではないかと危険を感じている。今後、上諏訪駅西口の整備が予定されているので、安全性を考慮した上で整備してほしい。
- ・諏訪湖祭湖上花火大会の開催時は、上諏訪駅の西口に改札ができるが、通常は改札を出てから歩道橋を渡って西口に向かう。上諏訪駅の西口に改札を設置することができないか。
- ・植え込みの下草が気になることがある。ちょっとしたことではあるが、町の印象が変わるので整備できないか。
- ・チョイソコかりんちゃんのテスト運行が始まり利用しているが、1時間以上開けなければ次の予約ができないなどの不便さがある。利便性を向上してほしい。

・「みんなの居場所 ゆめひろ」に関わっているが、利用者が増えないという課題がある。気軽に利用できる場所がもっとあっても良いと思っているので、どのようにしたら利用者が増えるか模索している。

・以前は、スワプラザに駅前市民証明窓口コーナー（かりんちゃんサイト）があり、市役所に出向かなくても、一部の市の手続きができた。常設でなくてもいいので、駅前交流テラスすわっチャオで市の手続きができると良い。7月の参議院議員通常選挙からは、駅前交流テラスすわっチャオで期日前投票ができるようになるので嬉しい。

・諏訪市のいいところを伝えたい。都会に住んでいる子どもに聞いた話だが、マンションで会った小学生にあいさつをしたら、次の日に「子どもに声をかけないでください」と貼り紙をされると話していた。諏訪市ではそのようなことがなく、小学生たちは元気なあいさつをしてくれる。諏訪市に住んで悪いことばかりではない。都会に住む子どもたちは、諏訪市の環境が羨ましいと話している。

・高齢になって車の運転ができなくなったらどうなるだろうと不安がある。

・諏訪市の道路は狭いが、これ以上広げることは難しいとも思う。

・立石公園を訪ねる観光客が多く、渋滞の問題がある。どうしたら解消できるか。

・旧東洋バルヴ諏訪工場跡地は、今後どうなるのか。

・市長は、まとまった休暇を取ることが難しいのではないかと。健康管理なども重要なので、一週間程度のまとまった休暇を取得してはいかがか。

## ■市長から

・日頃から、さまざまな立場でお力添えをいただき、感謝申し上げます。

・市長に当選して最初の議会でトイレに力を入れると約束し、改修を進めてきた。行き届いていない場所があることや一度改修をしたものの、現在の標準に合わなくなってきた場所が出てきたと捉えている。

・公共事業は、最少の経費で最大の効果を上げなければならない。危険度、将来性などさまざまな判断をして事業を進めているので、すぐに結果が見えるわけではないがご理解いただきたい。

・男女共同参画を考えるときには、男女が互いに尊重し合うことが大切ではないかと思っている。何でも男女が一緒であれば良いかというところではなく、選択の自由があると良い。男子小学生の言葉の背景を考えると、女子小学生を守ってあげたいなど何か理由があるかもしれない。もしそうであれば、その気持ちは尊重してあげたい。思いを伝え、分かり合うことが大切ではないか。コミュニケーションの中で思ったことを伝えられないというのは良くない。物は言うが、お互いに分かりあおうという思いを持った「対話」が必要。学校での教育も基本的な考えは変わらないと思うが、教育委員会に伝える。

・JRの高架化、複線化は、かつて議論されたが実現しなかった。高額な事業費を考えると、市が単独で実施できる事業ではなく、東日本旅客鉄道株式会社、国、県も関

係する。現在は、国道20号諏訪バイパスが優先と判断して進めている。

・上諏訪駅西口の整備は、専門家に関わってもらったり、市民グループの声を伝えたりしながら検討委員会で議論を進めている。法務局の出入口付近の危険性をご心配いただいたが、上諏訪駅西口の開発が進むと法務局の移転をお願いすることになる。移転は時間がかかることなので、スムーズにできるよう進めている。

・植え込みの下草は、地域の皆さんが維持管理をしてくださっている場所がある。人手不足の時代なので、これまでどおりの維持管理ができなくなっている。公共施設も集約して、将来の人たちが困らないようコンパクトシティ化を進める。町の新陳代謝が必要であるご理解をいただいている。民生委員や地区の人などのコミュニティ、地域の支え合いが大切。

・かつて諏訪湖だった土地は地盤が緩い。地盤の緩い土地の道路は傷みやすい。道路が狭いので拡幅するとなれば、そこに住む人たちには移転してもらわなければならない。道路や歩道の設計をしてから家が建って町ができたところとの比較となると行政を預かるものとしては辛いですが、一方通行にしたり歩道を広げたり、時代に合わせた工夫をしながらまちづくりをしている。

・チョイソコかりんちゃんは、バス停を利用する公共交通で、タクシーなどの既存のサービスとの兼ね合いも検討して導入した。定時定路線のバスも一部を残す。交通のストレスが少なくなるよう皆さんの声を聞きながら取り組む。

・「みんなの居場所 ゆめひろ」は大切な場所なので多くの人に利用してもらいたい。利用を促進するために遠慮なくアプローチしてほしい。

・駅前交流テラスすわっチャオに生涯学習課の拠点を移転し、期日前投票の投票所を開設するなど機能の拡大ができている。

・子どもたちが知らない人に声をかけられ、付いて行って犯罪の被害に遭うことについて、行政や学校は責任を問われやすい。また、それが加速化して暮らしにくくなっている気がする。周りの目があることによって、犯罪から子どもを守ったり、子どもたちに不審な人と地域の人を教えたりすることができる。都会ではそのことが難しいので、一律で「あいさつをするな」になってしまう。あいさつをしてもらうこと自体は嬉しいことなので、マニフェストに観光バスへの歓迎お手振り運動を入れた。観光バスを見かけたら手を振るだけでいいので参加してほしい。

・旧東洋バルヴ諏訪工場跡地は、文化センターの大規模改修、上諏訪駅西口の整備の次の段階で整備する。町のにぎわいは人がいてこそ。オートメーション化により効率化を図ることができても、にぎわいにはつながらない。人がまばらに拡散した町より、コンパクトな町を目指している。市文化センターを改修して耐震化を図り、地震などの災害で人が集まってきたときにも利用できるようにする。少しずつ進んでいるご理解いただきたい。現在、衣之渡川にかかる橋を封鎖している。衣之渡川の整備は県の管轄になるので、整備をしていただくよう要望し、市文化センターの出入口の道路の件も一体的に考えたい。

・旧城北小学校は取り壊す方針。跡地の活用は、皆さんからの要望を聞いて進める

が、個々の意見を聞くことは難しいので、地区やグループで取りまとめてお寄せいただきたい。

・私の休暇の取得や健康管理のご心配をいただいて感謝申し上げます。労働者として保護される立場ではないが、毎年人間ドックを受けるなど健康管理に努めており、元気に過ごしている。

## 感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・市長の頑張りを実感でき、同性の視点で話し合えた。
- ・課題・問題への取組や成り行きが良く分かった。
- ・市政を改めて学ぶことができ、楽しい良い機会だった。
- ・時間がもう少し欲しかった。
- ・お互いに分かり合える自由な対話の時間を持つことの大切さが市民に広まってほしい。
- ・市長の人間性に触れる機会を持つことで街の活性化につながると思う。



## 第4回 令和7年10月9日(木)

---

- 団体名 : 上諏訪中学校1学年  
開催時間 : 13時35分～15時25分  
会場 : 上諏訪中学校  
参加人数 : 55人  
テーマ : より魅力的な立石公園にしていくために

### 【主な内容】

#### ■団体から

- ①立石公園のオーバーツーリズムについて
  - ・二輪車専用の駐車スペースを設置する
  - ・土・日・祝祭日の公共交通機関の利用を推奨する
  - ・上諏訪駅周辺の駐車場を利用し、駅からは公共交通機関の利用を推奨する
  - ・高齢者や足が不自由な人などは、タクシーの利用を推奨する
  - ・周辺地域の住民に許可証を発行する
  
- ②自転車置き場とサイクリングロードの整備について
  - ・駐輪場の整備とバイクラックを設置する
  - ・立石公園周辺にサイクリングロードを整備する
  - ・観光客が撮った写真をSNSに上げてもらえるよう、写真スポットを設置する
  
- ③環境整備について
  - ・来園者の意見を集める意見ボックスを設置する
  - ・上中ボランティアで遊具の手入れ、花植え、ごみ拾いを実施する
  - ・傷んだベンチの撤去・修繕、ものづくり科の授業で制作したベンチ・看板を設置する
  
- ④トイレについて
  - ・トイレを建て替える
  - ・トイレの建て替え費用のための募金を実施する
  - ・男女の別が分かりやすいトイレにする
  
- ⑤情報提供について
  - ・SNSで渋滞情報やライブカメラへのリンクを配信する
  - ・観光パンフレットへの二次元コードを掲載する
  - ・上諏訪駅前に立石公園の案内看板を設置する
  
- ⑥利用しやすいホームページについて

- ・市公式ホームページの文字のサイズや色などの工夫により見やすさを改善する
- ・ライブカメラにいたずらをされない工夫や設置場所を検討する
- ・立石公園に関する情報をまとめたページを作成する
- ・市公式ホームページ内の写真を最新のものに更新する
- ・混雑を考慮した時間に立石公園に立ち寄る観光プランを提示する

## ■市長から

### ①立石公園のオーバーツーリズムについて

- ・実際に立石公園に出向き、来園者にアンケートを取った行動力に敬意を表する。アンケート結果の解説があるとさらに良い発表になると思う。
- ・限られた駐車場の中に二輪車用の駐輪スペースを確保することによって、自動車用のスペースが少なくなると、今度は、「バイク3台分のスペースに自動車が1台止められるではないか」というような意見が出る可能性もあるので、自動車とバイクの双方の目線が必要かもしれない。バイク専用にすると融通が利かないので、バイク優先にして、空いている時には自動車を止めることができるというような方法もあるかもしれない。
- ・とてもいい気づきだったので、市でも研究してみたい。気づきを与えてもらい感謝する。引き続き良い知恵があったら寄せてほしい。
- ・タクシーの利用は有効だと思う。バスは、一度に多くの人を乗せるのに適しているが少人数では効果的でない。

### ②自転車置き場とサイクリングロードの整備について

- ・バイクラックはすぐにでも設置したい。自転車を放置しておく盗難のリスクがある。自転車に鍵をかけられることも重要であり、そう考えるとバイクラックがあることは大事。上諏訪駅まで電車に来て、自転車を借りて立石公園に行くなど選択肢が増えると思う。
- ・サイクリングロードの整備についての提案をいただいた。自転車に乗る人にとってはサイクリングロードがあると良いと思うが、車・バスを運転する人、歩行者にとってはどうか考える必要がある。また、自転車の走るスペースを確保すると道路の幅を確保するために用地の確保や工事の費用がかかり、どのように捻出するかなどの課題がある。それでも、自転車に乗って安全に立石公園に行きたいという希望があることを受け止めた。
- ・長野県が推奨する「ジャパン・アルプス・サイクリングルート」があり、霧ヶ峰に向かう県道はその一部である。道路に案内表示があり、安全に配慮しながら自転車で走ることができる。
- ・写真スポットの設置は、実現の可能性があると思う。立石公園は世界中の人から注目を浴びており、SNSの世界には国境がないので情報が広がりやすい。皆さんと力を合わせてできたら嬉しい。

### ③環境整備について

- ・意見ボックスの設置は、実現の可能性があると思う。
- ・ごみ拾いなどを自ら進んで行うと提案してくださる勇気が素晴らしいし、そう言うてくださる皆さんがいることが嬉しい。
- ・看板やベンチの作成をしてくださる気持ちが嬉しく、その成果にも期待したい。公園の管理上の都合もあるため、担当課と相談をしてほしい。
- ・指摘をいただいた内容のうち、市がやるべきことは対応していく。

### ④トイレについて

- ・今年度中に、洋式化や男女別の仕切りの設置、照明などの改修を行う予定である。においの対策も行いたいと思っている。
- ・管理が行き届かず、たばこの吸い殻があるというようなことは良くないことであり、きれいに維持し続けることが大切なので、気をつけて管理していく。
- ・費用の捻出のため、自ら募金で貢献しようと思ってくださったことを嬉しく思う。霧ヶ峰のバイオトイレの協力金箱が盗難にあった例もあり、監視の目がない場所に募金箱を設置するリスクがあることから、方法や設置の仕方は検討が必要である。また、募金は勝手に行うことができず、ルールがあるため、その研究をすることも勉強になると思う。

### ⑤情報提供について

- ・市公式ホームページだけでは情報を得るのに不十分なので、もっと使いやすくできるのではないかという提案と受け止めた。
- ・パンフレットに二次元コードを付けることは可能。それほど費用をかけずにできると思う。
- ・上諏訪駅前に立石公園の案内看板を設置することについては、一つの方法であると思う。一方で、上諏訪駅で降りた観光客の全てが立石公園に行きたい人かというとはそうではなく、手長神社、諏訪大社上社、諏訪高島城、諏訪湖畔などさまざま。全ての場所の案内看板を設置したらどうなるか考える必要がある。また、土地や景観の課題もある。
- ・自分たちの思いを伝えたいということではいろんなアイデアを出してくださった。さらに、それに反対する立場だとどのように考えるかということも踏まえて折り合いがつかるところを見つけなければならない。また、法令などルールを調べることも大切。
- ・立石公園のオーバーツーリズムは、まだ、市で解決できていない課題なので、皆さんの提案を受け止めて一緒にできることは進めていきたい。

### ⑥利用しやすいホームページについて

- ・ウェブサイトの表示順は、検索サイトのアルゴリズムによるものであるなど、システム上、市で対応ができないこともあることをご理解いただきたい。
- ・検索の結果、たどり着いた先である市公式ホームページがもっと使いやすいものになる余地はある。情報を得ようと思った人が、いろんなページを経由しなければ欲しい情報にたどり着けないとすれば不便であると感じる。利用者の目線で利用しやすいサービスの提供が大事なので、技術的なことは担当課で研究し、改善できることは対応する。
- ・来園者の手が届く場所にライブカメラを設置したため、いたづらをされてしまうことをご指摘いただいた。カメラを設置する場所や方法に工夫が必要である。
- ・市公式ホームページの立石公園の記事で使用している写真に、撤去済みの遊具が写っていることをご指摘いただいたので、最新の写真に差し替えたい。また、季節ごとに写真を変更するアイデアをいただいた。ホームページの膨大な情報を管理すること、限られた人員と予算をどのように市役所全体の業務に反映するかということを考えてときに折り合いがつく更新の頻度が、期待に沿うものでない可能性があることをご理解いただきたい。
- ・市公式ホームページに掲載する写真を一緒に選びたいと言っていただいたことや観光プランを提案したいと言っていただいたことについて嬉しく思う。さまざまな人が使うツールとしてのホームページなので、皆さんの声は大切にしたい。

#### 【全体を通して】

- ・各グループが基本的なことを調べるところからスタートし、提案をしてくださった。また、自分たちにできることを考えてくださるなど、素晴らしい出来栄だった。
- ・行政で気付かなかったことや皆さんと協力して実現できそうなことがいくつかあった。皆さんは、大切な市民。皆さんから提案をいただいたということに大きな意味がある。
- ・限られた授業の時間の中であるが、一緒に取り組むことができる可能性があるようなので期待したい。

#### 感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・私たちの提言を市長に聞いてもらってアドバイスをいただいたり、これから実施することを言ってもらったりして良かった。これからは楽しみだし、今まで調べてきて良かった。
- ・市長との懇談を通して、もう少しいろいろな視点を持ち、私たちが協力できるのはどんなことがあるか考えていきたい。
- ・物事を実現するためには多角的に考えることが大切だと気づき、これからの学習にも前向きに取り組んでいきたいという感想が多くあった。生徒が探究活動をしていく

上で貴重な機会となった。

・半年間、問いづくりから考えてきた生徒たちにとって、金子市長に提言を聞いていただき、さまざまな視点で講評をいただけたことで、多くのことを学び考える機会となった。



## 第6回 令和8年1月27日（火）

団体名 : 諏訪市子育て支援ネットワーク  
開催時間 : 9時59分～11時22分  
会場 : ふれあいの家  
参加人数 : 5人  
テーマ : 諏訪市の活気ある将来像

### 【主な内容】

#### ■団体から

- ・市民満足度調査の自由記載欄に書いた意見に対して市から回答がなく、市の施策に反映されているのかが分からないため、書く気がなくなってしまう。
- ・市民満足度調査の自由記載欄と「市長へのてがみ」等の広聴事業の区別がつきにくいと感じる。市長へのてがみやメールを出すほどではないが、ちょっとしたつづやきを気軽に伝えたい。
- ・市役所を訪ねた際、市職員の対応が冷たいと感じる時がある。行政サービスは、サービス業である。市職員は、サービス業に従事する人がどのような研修を受けているか知る機会がないと思うので、相手の目線で対応するための接遇研修を行ってはどうか。
- ・あいさつを交わすだけでも、もてなされている気持ちになる。職員の対応は改善されてきており、特に若い職員からは快活なあいさつをしてもらうことが多い。
- ・一方で、窓口で声かけても反応してもらえないこともある。男性職員が反応せず、奥にいた女性職員が慌てて出てきたということがあり、窓口対応は女性職員の仕事という認識なのかと驚いた経験がある。
- ・手続きによって、庁舎内の複数のフロアを行き来しなければならないことがある。来庁者全員に対して同じようにはできないとしても、移動が大変な人もいるので、職員が行き来するなど臨機応変に対応してもらいたい。
- ・市内には大学がなく、若者が進学等で市外に出ると戻らないことが多い。諏訪市のいいところはたくさんあるが、若い世代が戻ってきたいと思えるような魅力に欠けているのかもしれないと思うことがある。若者が戻らないとまちは衰退してしまう。3年後、5年後のビジョンはいかがか。
- ・市内の企業の中には、男性の育児休業の取得が認められていないところもあると聞く。市が男性職員の育児休業の取得をPRして企業に広がるといい。
- ・天候により、上諏訪駅構内の表示の見え方や照明の点灯状況が異なる。また、表示の分かりにくさがある。以前、上諏訪駅から諏訪高島城へのルートを聞かれたことがあるので、諏訪高島城まで誘導する案内があるといい。

#### ■市長から

- ・市民満足度調査は、市政に対する評価を把握するための「調査」であり、市民の皆

さんとのやり取りの場ではないことをご理解いただきたい。調査の結果を分析して傾向を把握し、今後の施策に生かすためのものであるため、ご意見やご提案は、「市長へのてがみ」などでお寄せいただきたい。市長宛てに出すほどではないという時は、担当課に伝えていただくことで共有することができる。

- ・市民満足度調査の自由記載欄と広聴事業の区別がつきにくいというご意見があったので、市民満足度調査の調査票に説明を入れることができないか検討する。

- ・市職員の対応について、感じたことを伝えていただくことは大変参考になる。職員研修について知っていただく機会は少ないが、事務処理、法令等のスキル、職層に応じた研修のほか、接遇の研修などを実施している。

- ・市長に就任して以来、庁内のあいさつ運動を呼び掛けている。行き届いていない部分があるとすれば、来庁された人に満足していただけるよう努める。

- ・少子化は、当市だけでなく全国的な課題である。子育て支援は、生まれた子に対する支援である。それだけでは支援としては十分ではなく、子育て支援と少子化対策は分けて実施する必要がある。

- ・今も性別による役割分担意識が残っており、子どもが生まれた後、家庭内での役割も女性が担う割合は高い。現在、市長としての任期は3期目だが、2期目と3期目でその割合が変わらず、世の中に変化がないことにショックを受けた。現代は、自己実現を重視する人が多いが、家事、子育て、仕事も忙しいとなると心身の負担が大きくなり、子どもを持たないという選択になる可能性もある。身近なところで気軽にサポートをお願いできる社会環境が大切だが難しい。

- ・市内の外国籍住民が地域に溶け込んでいるか個人的に確認をしたことがある。さまざまな国籍の人が住んでいるが、地区の出払いに出たり、ホームパーティに招いてくれたりするという話も聞く。日本人の住民が近隣に声をかけることが少なくなったが、外国籍の住民が日本人の住民に声をかける状況があるようだ。

- ・以前、高校生に諏訪市の好きなところを聞いたら、「田舎過ぎず、都会過ぎず」と話してくれたことがある。諏訪のことが好きな高校生は多いが、都会へのあこがれを持つことはあると思う。さまざまな世界を知ることによって新たな視点が生まれるので、「諏訪から離れないでほしい」とは言いたくない。生まれ育った地域との縁が大切に、縁があるうちはみんなで見守ることで、諏訪に帰ってきたいと思ってくれる人もいるのではないかと。Uターン、Iターンで諏訪市に来てくれた人もかなりいる。諏訪市に住む人たちが孤立せず、住んで良かったと思ってもらえるようなまちづくりを目指したい。

- ・市では、職員の年次有給休暇の取得が増えてきたり、男性職員の育児休暇の取得者が増えてきたりしている。昨年4月には健康経営宣言を行うなど、働きやすい環境を整えている。これらのことが気持ちの余裕につながって、あいさつのような行動につながっているとしたら嬉しいことである。市内でも「子育てサポート企業」の認定(くるみん認定)を受けている企業がある。認定を受けていると人材獲得の面で差が出る可能性がある。社会全体の認識が変わる必要がある。

・上諏訪駅の構内は、東日本旅客鉄道株式会社の管轄なので伝達したい。諏訪高島城への案内があったらいいのではないかとご提案をいただいたが、諏訪高島城だけでなく、さまざまな場所に行きたい人が上諏訪駅を利用する。行き先のことでお困りであれば、観光案内所を案内するのが望ましいのではないかと。上諏訪駅構内の案内は、上諏訪駅西口に改札ができるとまた変わってくると思う。上諏訪駅周辺地区整備基本構想の策定を進めており、今後、パブリックコメントを実施するので、ご意見を寄せていただきたい。

## 感想・意見など

開催後に、アンケートで寄せられた感想や意見を抜粋して掲載します。

- ・和やかな雰囲気の中で自由に活発に意見交換ができた。
- ・市政懇談会「ゆかり市長とまちかどトーク」は、市民としては準備が不要で気楽である。「ゆかり市長の出張トーク」は、市長と密に話すことができるが、団体側の準備が必要なので、「ゆかり市長とまちかどトーク」の回数を増やしてほしい。



---

団体名 : 後山区  
開催時間 : 15時00分～16時32分  
会場 : 後山構造改善センター  
参加人数 : 17人  
テーマ : 後山区の活性化

### 【主な内容】

#### ■団体から

・農産物をブランド化して後山のファンを作ろうということで Suwa 後山ブランド化プロジェクトが発足した。若い世代にふるさとの良さを伝え、後山を誇りに感じてもらおうことを目指している。後山の魅力と強みを可視化し、農産品を通じて生産者とお客様の双方が豊かになるプラットフォームが構築できたらという思いで進めてきた。

・合同会社ヤツガタケシゴトニと連携し、ブランドブックの制作、メディアプロモーションの実施により後山を知ってもらうこと、ふるさと納税の返礼品の提供やECサイトでの商品販売により後山のファンを創出することに取り組んでいる。ふるさと納税の返礼品は、マツタケとトウモロコシの2つ。農産物は、注残（注文を受けたが出荷や納品ができないこと）が怖く、多くの注文を取ることができない状況がある。

・諏訪湖畔のホテルでの販売、諏訪市農業祭への出店、上諏訪温泉朝市への出店も行っている。

・今後の展望としては、魅力ある農産品の生産を継続し、将来、子や孫たちが「自分たちもやりたい」と思ってもらえるような基盤を作りたい。安定的に購入してくれる顧客を増やすという課題があるので、収穫の時期に後山で販売ができるといい。「きのこの里」構想というのでも進めており、菌床実験をしている。

・リンドウの栽培などで大量の水を使うが、用水路が壊滅的な状態である。水路を直していただけないか。

・鳥獣対策のうち、特にクマの捕獲に関しては、県からの指示にとどまらず、市から県に捕獲の必要性を伝えていただくよう求める。市街地にクマが出没したら大きな騒動になるが、山の中であればクマが出没しても良いと捉えているのではないかと。山に入って仕事をするため、危険が身近にある。

・有賀峠デマンド交通を利用している。以前のデマンド交通の制度の時には、利用者が少なかったと思うが、今は利用者がある。運賃は安価で助かっている。利用の際は、前日までに予約が必要なため、当日の予約ができると使い勝手がいい。

## ■市長から

・ブランド＝信用であり、高額であっても相応のものがいつでも手に入るという形が理想。農産物には旬があるので難しさはあると思うが、ブランドを大事に育ててほしい。

・ふるさと納税の返礼品のマツタケは、すぐに申し込みがある人気の品。安定的に出せないという心配はあるが、良品を出すことが評判につながる。マツタケのほか、とうもろこし「ピュアホワイト」、リンドウ、信州ひすいそばなど後山であるからこその特産品であり、ブランドである。皆さんに頑張ってもらって取り組んでいただいているので市としても応援したい。

・水路の改修は、市の単独事業で行うことが困難であるため、県の協力を得ることになる。後山の特性を生かした農業の振興のために水の供給が必要であり、水路の整備が必要と理解した。国庫補助の対象になる可能性もあるので確認する。

・クマの対策は、長野県市長会を通じて県に申し入れを行っている。山で仕事をする人が危険にさらされていいと思っているわけではない。また、クマが人の生活するエリアに近づかないようにする方法も考えなければならない。現状を調査して、原因を把握することが必要。人の安全が第一である。

・有賀峠デマンド交通は、積極的に活用してほしい。予約に関する要望をいただいた。今は、公共交通のあり方の過渡期にある。ドライバーが少ない現状で、効率よく運行して経費を削減したいと思うが、検討に時間が必要である。

